

26年5月研修会

「五條市の史跡散歩」

資 料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

(5月19日)

5月歴史文化クラブ研修会 行程

平成26年5月19日(月)

- | | | |
|-------|------------------------|--|
| 8:30 | 全員集合 確認 | 近鉄奈良 中小企業会館前集合 資料配布、参加料徴収 |
| 8:30 | 近鉄奈良駅前出発 | 途中 トイレ がないので、必ず駅で済ませておくこと
(車内講義) |
| 10:00 | ↓
五條市 着 | |
| 10:15 | ↓
桜井寺(天誅組本陣跡) | 桜井寺の駐車場で下車。(バスは民俗資料館で待機) |
| | ↓
御霊神社(御旅所) | 地下道を通って向かい側へ |
| | ↓
(重文)栗山邸 | 日本で最も古い民家(1607年築)・・・非公開 |
| | ↓
新町通り 散策 | 江戸時代の面影を残す町並みを、パンフを参考に歩く |
| | ↓ | 「まちなみ伝承館」に トイレ あり。説明依頼可
松倉重政 説明版⇒五新鉄道跡(陸橋)で終わり |
| 11:00 | 五條代官所長屋門 | 少し戻って北へ曲り、24号線を渡って民俗資料館へ |
| 11:30 | 出発 | 見学後、バスに乗車 |
| 11:50 | ↓
栄山寺 着
見学と昼食・休憩 | 見学 拝観料400円
昼食・休憩 トイレ |
| 13:00 | ↓
出発 | |
| 13:40 | ↓
御霊神社 着 | (見学と解説) トイレ |
| 14:30 | ↓
他戸親王墓 着 | |
| 14:50 | ↓
井上内親王宇智陵 着 | |
| 15:00 | ↓
帰途へ | 車内講義(中井さん他)
トイレ 休憩 |
| 16:30 | ↓
近鉄奈良駅 着 | |

明治維新は五条から始まった
天誅組の変

徳川幕府300年の泰平が崩れ、万延・文久・元治と続く年代は、幕末騒乱の様相を呈した時代と言える。

「天誅組の変」は尊王攘夷派によって試みられた最初の反幕府武装蜂起だった。

1 あらまし

文久3年(1863年)8月。朝廷の要職にあった三条実美ら尊王攘夷派の公家たちは幕府に対し攘夷決行の命令を下すが幕府は動かず、倒幕の機運が高まる。

孝明天皇に神武御陵・春日大社で攘夷を祈願する大和行幸を働きかけ、倒幕の兵を挙げる筋書きを、思惑どおり大和行幸の詔の発布として実現する。

倒幕軍の先鋒になろうとした天誅組は中山 忠光を盟主として密かに京都を出発。70～80人の手勢で五條代官所を襲撃。代官 鈴木 源内を殺害、代官所を焼き打ちし、桜井寺を本陣として、管轄下の天領を朝廷に差し出すと宣言する。

京都では公武合体派が政変を起こし、尊王攘夷派は失脚し大和行幸は中止、一転して天誅組は逆賊として追討軍に追われる事となる。

尊王の志しの厚い天誅組は十津川で兵を募り、高取城を攻めるなど抵抗を続けるが反乱軍となった事実により、兵は離反し勢力は日に日に弱まり、9月24日、吉野郡小川郷鷺家口でほぼ全滅する。

2 天誅組の志士たち

中山 忠光：当時19才。血気盛んな青年貴族。明治天皇(祐宮 さちのみや)の叔父にあたり、祐宮の侍従を務めたこともある。

長州に逃げ落ちたが、翌年11月暗殺される。

吉村寅太郎：総裁。土佐出身。鷺家口の戦場で戦死。

松本 奎堂：総裁。三河出身。 ”

藤本 鉄石：総裁。備前出身。 ”

乾 十郎・井澤 宜庵・橋本 若狭：乾・橋本・・・処刑。井澤・・・獄死。

森田 節斎：五條出身。尊王の儒学者。頼 山陽の門下。吉田 松陰らを育てる。

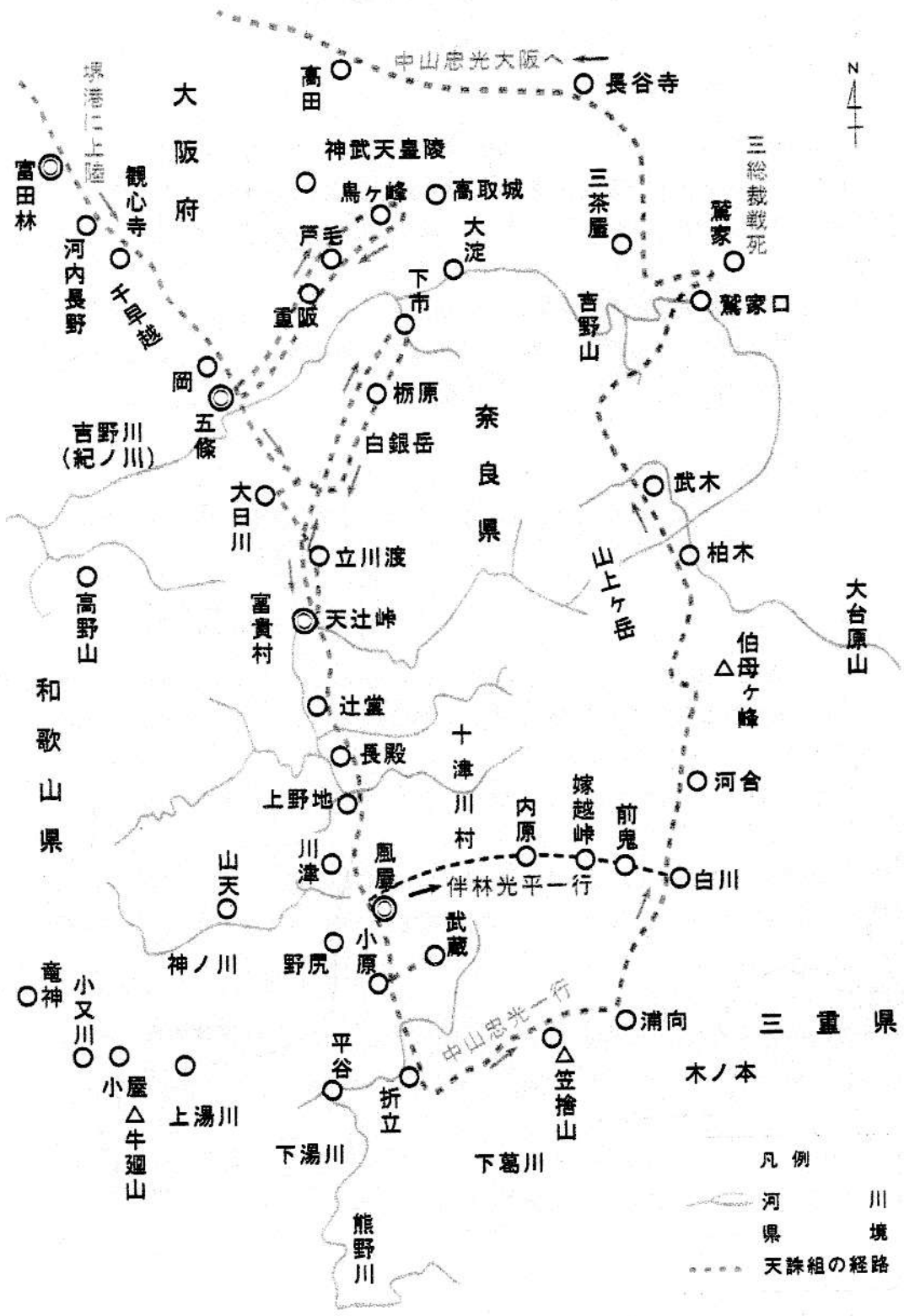
当時、倉敷で塾を開いていたが危険人物として故郷へ帰る。徴兵に尽力。

晩年は和歌山 粉河に隠棲。慶応4年(1868年)57才 没。

鈴木 源内：五條代官。事件の前年に赴任。領内で長寿の老人を表彰し領民から慕われる。当時60才位。人柄は温厚・善良。

参考資料 五條市教育委員会 誌料より

天誅組の足取り



(川井 秀夫)

5月歴史文化クラブ研修会 資料

1 栄山寺 2 井上内親王略伝 3 井上内親王宇智陵 4 御霊神社と御霊信仰

(古川 祐司)

1、栄山寺

古くは前山寺（さきやまてら）と言われたが、平安時代から栄山寺の好字を用いて（えいさんじ）と呼ばれるようになった。719年、藤原南家の祖である武智麻呂が創建し、彼の死後、子の仲麻呂が父母の菩提を弔って八角円堂を建立したと伝えられる（天平）。以後、藤原南家の氏寺として多くの寺領を有し栄えた。

南北朝時代には、南朝の後村上天皇・長慶天皇、後亀山天皇の行在所となり、行宮跡は国史跡に指定されている。戦国時代末期に八角円堂を除いて全て焼失し本堂は1553年の再建にかかるものである。裏山には、藤原南家の祖、藤原武智麻呂の墓がある。

①八角円堂（国宝・天平）

天平宝字年間の建立、日本建築史上重要な位置を占める。外観は八角形だが、内部の身舎（もや）は四角形。内陣の天蓋や柱には、天平時代の様式をよく留めた仏画（重文）が残る。

②梵鐘（国宝）

鐘の銘文から、当初は山城国道澄寺の梵鐘であったことがわかる。

延喜17年（917年）の鑄造、藤原武智麻呂の5世の孫である藤原道明と道明の伯父の橘澄清によって寄進された。道澄寺は京都市伏見区深草直違橋に現存する。

梵鐘は「平安三絶」の一つと言われ、京都神護寺、宇治平等院と並び名鐘とされている。

四面に陽鑄された銘文は菅原道真の撰、書は小野道風（平安三蹟の一人）の筆と伝える。龍頭の精巧さは本邦梵鐘中随一と言われる。東大寺梵鐘と似ており、大和の工人の作か。

③本堂（薬師堂）

伝・天文22年（1553年）の再建

本尊は薬師如来坐像（重文・室町1431年）、木造十二神将像（重文・室町1454～5年）

④石灯籠（重文・鎌倉）

（北面）栄山寺勸進良覚、（南面）弘安七甲申 俊清の銘（1284年）

⑤七重石塔婆（重文・奈良）

奈良時代の建立で、わが国で最も古い石造塔の一つといわれる（寺の説明）が、平安末とする見解が一般的。

八角円堂（国宝）



七重石塔婆（重文）



本堂（薬師堂）（重文）と石灯籠（重文）



2、井上内親王（いのえないしんのう、いがみないしんのう）略伝

《年表》

第49代光仁天皇の皇后。第45代聖武天皇の皇女（孝謙天皇の異母姉妹）。

養老元年（717年）ご誕生。（母：縣犬養宿祢広刀自：あがたいぬかいのすくねひろとじ）

養老5年（721年）5歳、斎王に選ばれる。斎（いつき）内親王

神亀4年（727年）11歳、伊勢皇大神宮に出仕

天平17年（745年）29歳で斎王を解任。35歳頃、白壁王の妃となる。

天平勝宝6年（754年）、37歳という高齢出産で酒人内親王を産む。

天平宝字5年（761年）45歳で他戸（おさべ）親王が誕生

宝亀元年（770年）54歳、（白壁王）光仁天皇即位により皇后となる。

宝亀2年（771年）他戸親王（11歳）立皇太子

宝亀3年（772年）巫蠱（ふこ）の罪（巫女に命じて天皇を呪わせた）で皇后を廃さる。

宝亀4年（773年）1月、山部親王（後の桓武天皇）が立太子。

宝亀4年（773年）10月、難波内親王（光仁天皇の同母姉）を呪詛し殺害した厭魅の罪の疑いで、井上内親王母子は流罪。大和宇智郡没官の宅に幽閉。

宝亀6年（775年）4月27日、井上内親王（59歳）、他戸親王（15歳）ともに逝去。

（暗殺されたと考えられている）

宝亀7年（776年）天災地変が頻発し、天皇は600人の僧侶に金剛般若経を誦経させる。

宝亀8年（777年）墳墓を改葬、御墓と称し守冢（墓守り）1畑を置く。

延暦元年（782年）桓武天皇即位（45歳）、早良親王が立太子

事件の背景

井上内親王と他戸親王は、奈良朝末期の政変の犠牲者であったと思われる。

その背景として、井上内親王の立后と他戸親王の立太子に尽力した北家の藤原永手（左大臣）が宝亀2年（771年）の2月21日に他界したことが引き金となって、藤原氏内部における藤原北家から藤原式家への政権移動があったと言われている。

井上内親王の光仁天皇呪詛事件は、山部親王の立太子をもくろむ藤原良継や藤原百川（ももかわ）ら藤原式家一派の陰謀とする解釈がある。

3、井上内親王宇智陵・他戸親王墓

宝亀7年（776年）から天災地変がしきりに起こり、廃后・廃太子の怨霊と恐れられ、また廃后は竜になったという噂が立った。同8年（777年）、光仁天皇は遺骨を改葬させ、墓を御墓と追称し、翌年には勅使壺志濃王、石川朝臣垣守が下向し墳墓を改葬する。

後に桓武天皇は、延暦19年（800年）崇道天皇（早良親王）の名誉回復にあわせ、井上内親王を皇后と追号し、御墓を山陵と追称する。陵墓は奈良県五條市御山町の宇智陵に比定されている。他戸親王の墓は、井上内親王陵の北、ハカ山にある。

4、御霊神社本宮と御霊信仰

御霊神社（五條市史より）

桓武天皇は、延暦19年（800年）井上内親王母子や相良親王など非業の死を遂げた霊魂の崇りを恐れ、葛井王を下向させて、内親王を皇后に復位させ、霊安寺（廃寺）に祀る。御霊神社もこの時期の創建とされている。

御霊神社（本宮）は、丹生川畔に東面して鎮座する（旧縣社）。当社と霊安寺（廃寺）の境内の地を字宮崎といい、神社の東側に満願寺がある。祭神は、井上内親王、早良親王、他戸親王である。本殿は、三間社流造檜皮葺、桃山風江戸初期社殿建築様式の典型として、県の指定文化財。女神像は藤原末期、二体の童子像は鎌倉末期の作風である。

平安時代以降、京都を中心に御霊信仰が民間でも盛んになると、宇智郡では御霊神社は土地の氏神として民間の信仰を集めるようになる。やがて嘉禎4年（1238年）豪族の吉原氏と牧野氏の争いが本となって御霊神社の宮分けが行われ11社に分祀された。それ以降も「宮分け」が盛んに行われ、現在五條市内には20余社の御霊神社が祀られていて、これにまつわる多くの伝承が遺されている。

御霊信仰（ウィキペディアより引用）

古代、政争での失脚者や戦乱での敗北者の霊、つまり恨みを残して非業の死をとげた者の怨霊は、その相手や敵などに災いをもたらす他、社会全体に対する災い（主に疫病の流行）をもたらすと考えられた。井上内親王、他戸親王、早良親王などは亡霊になったとされる。こうした亡霊を復位させたり、諡号・官位を贈り、その霊を鎮め、神として祀れば、かえって「御霊」として霊は鎮護の神として平穏を与えるという考え方が平安期を通しておこった。これが御霊信仰である。

記録上、最初に確認できる御霊会は、863年（貞観5年）5月20日に行われた神泉苑で行われたもの（日本三代実録）である。

この最初の御霊会で、崇道天皇（早良親王。光仁天皇の皇子）、伊予親王、藤原大夫人（藤原吉子、伊予親王の母）、橘大夫（橘逸勢）、文大夫（文室宮田麻呂）、観察使（藤原仲成もしくは藤原広嗣）の六人が祭られた。後に、井上皇后（井上内親王。光仁天皇の皇后）、他戸親王（光仁天皇の皇子）、火雷天神（下御霊神社では6つの霊の荒魂であると解釈している。一般には菅原道真であるともいわれるが、道真が祀られるようになったのは御霊神社創設以降）、吉備聖霊（下御霊神社では6つの霊の和魂であると解釈している。吉備大臣吉備真備、もしくは吉備内親王、とも言われる）をくわえ、観察使と伊予親王が省かれた「八所御霊」として御霊神社（上御霊神社、下御霊神社）に祀られている。

(注)
藤原四家（南家、北家、式家、京家）

藤原不比等の子、武智麻呂、房前、宇合、麻呂の4人が四家を立て、奈良時代の政治の中心に係わって活躍する。

南家 藤原武智麻呂

南家とは邸宅が藤原房前の南側にあったことによる。不比等の嫡流ではあるが、仲麻呂の反乱（恵美押勝の乱）の後は式家がこれに代わる。

北家 藤原房前（ふささき）

北家とは邸宅が藤原武智麻呂の北側にあったことによる。・藤原冬嗣が嵯峨天皇の信任を得ると勢いをつけ、道長、五摂家へと現代まで続く最も栄えた家系。

式家 藤原宇合（うまかい）

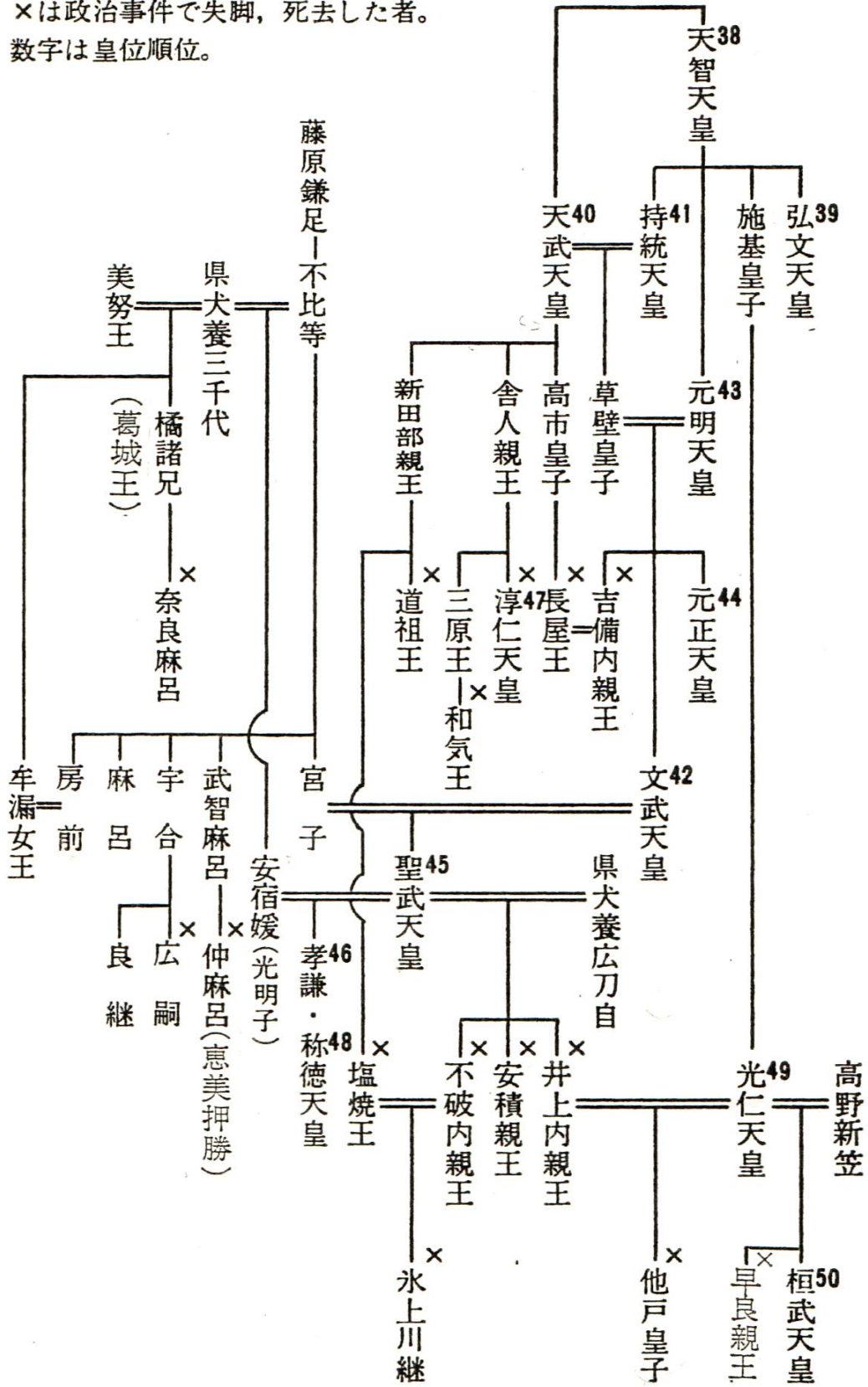
式家とは藤原宇合が式部卿だったことによる。藤原百川が光仁天皇、藤原種継が桓武天皇の信任を得たため一時栄えたが、薬子の変などによって北家に追い抜かれた。

京家 藤原麻呂

・京家とは藤原麻呂が左右京大夫だったことによる。他の三子とは母親が違うためか、あまり目立たない。

奈良時代の皇室と藤原氏の関係

×は政治事件で失脚，死去した者。
数字は皇位順位。



5月歴史文化クラブ研修会参加申込書
26年5月19日(月)実施

	氏名	申込日	備考
No.1	西谷 範子	4月19日	
No.2	川井 秀夫	4月22日	
No.3	中井 弘	4月22日	
No.4	古川 祐司	4月22日	
No.5	岩本 次郎	4月22日	
No.6	吉村 さつき	4月22日	
No.7	池田 富子	4月22日	
No.8	八木 順一	4月22日	
No.9	内河 洋文	4月22日	
No.10	羽尻 嵩	4月22日	
No.11	富井 忠雄	4月22日	
No.12	坂東 久平	4月22日	
No.13	辻本 愛子	4月22日	
No.14	辻本 信一	4月22日	
No.15	青木 幸子	4月22日	
No.16	弓場 厚次	4月23日	
No.17	弓場 京子	4月23日	
No.18	永井 幸次	4月24日	
No.19	川岸 美子	4月24日	
No.20	阿部 和生	4月24日	
No.21	池田 信明	4月25日	
No.22	森 英雄	4月28日	
No.23	寺田 孝	4月29日	
No.24	中川 瑛雄	5月1日	
No.25	和田 啓志	5月1日	